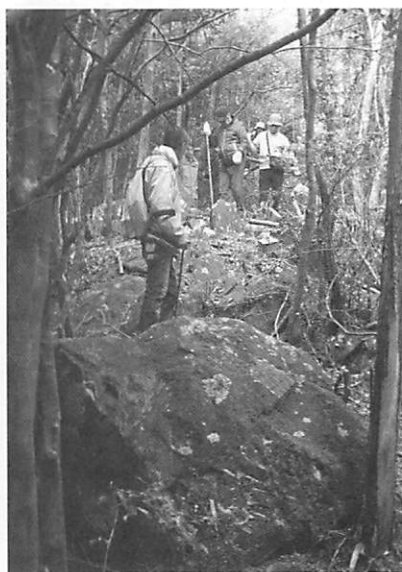


## 佐伯史談会創立

### 六十周年を迎えて

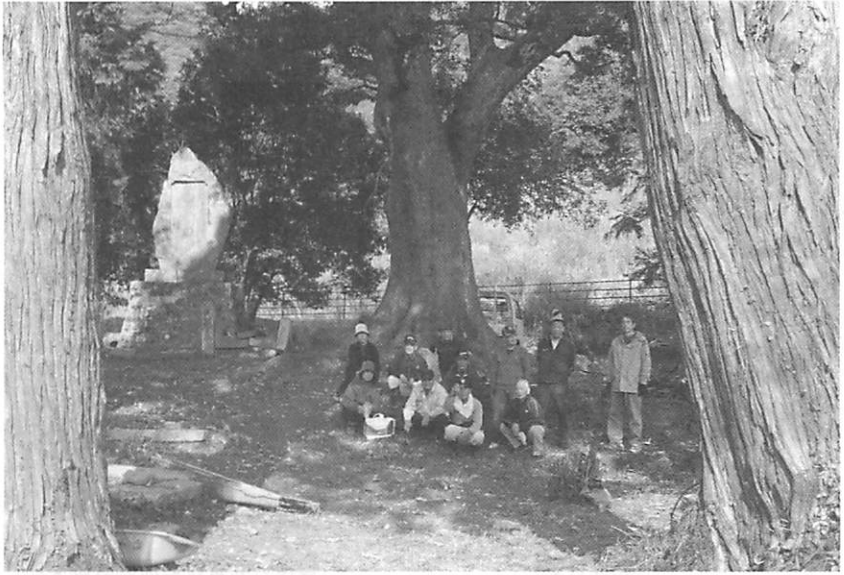
佐伯史談会会長 佐藤 巧

本年は佐伯史談会が発足して六〇周年に当たる。五〇周年記念事業では三余館で記念式典・講演会・記念誌「図録佐伯志」の配布など盛大に催されたことは記憶に新しい。今回は五〇周年程の企画は考えていないが、節目として何かやるべきとの御意見を承っている。今年度は明治元年から一五〇年、明治一〇年の西南戦争より一四〇年という節目で、NHKの大河ドラマ「西郷どん」に注目が集まっている。佐伯地方にも薩軍が侵入し豊日国境線が激戦地となり、戦死者を埋葬した官軍墓地（招魂所）が臼坪岡ノ谷に現存していることは周知の通りで、西南戦争の記録は各市町村誌に掲載され、最新の研究成果や歴史資料館での発見なども相次いでいる。



歴史ロマン探検隊（蒲江高床山）

当史談会では昨年度から「歴史ロマン探検隊」を企画し、西南戦争の激戦地である蒲江高床山・直川陸地峠・宇目梓峠・黒沢石神峠など日豊国境山岳地帯を探訪し、また年内五度の市内官軍墓地（招魂所）の清掃ボランティアを実施した。今年度は一般市民にも呼びかけ、田原坂・熊本城を訪れる研修会や招魂所の見学会などが計画されている。また佐伯地方に関わりのある記録の中から豊後西南戦記・豊後方面警視萩原隊戦闘実記・忠成日記・招魂所墓碑調査書などを復刻したいと打込作業を進めている。



招魂所清掃ボランティア（夫婦杉と大楠・左手は秋月新太郎書「敵愾の碑」）

### ○岡ノ谷招魂所の沿革と推移

柴田勝実編『豊後西南戦記』より招魂所の沿革を考察すれば、明治十一年、政府は殉職者の弔魂慰霊を行う必要から大分県令を通じて海部郡区長・佐伯村戸長に墓地用地を提供させ、仮埋葬されていた戦死者の遺骨を集めて現在地に官軍墓地が整備された。従って敷地は国有地となり慰霊祭は郡役所が主催し、大分県は墓地監守人を雇って境内の整備に当たってきたが、昭和二年の五〇周年祭典を最後に公式祭典は絶えたという。

佐伯史談会では昭和三九年、岡ノ谷招魂所の墓碑調査が河野與一会員によって行われ、一四八基の墓碑銘が明らかにされ「招魂所墓碑調査書」が発行された。その一二年後の百周年には佐伯史談会の主唱で墓前慰霊祭が行われ「調査書」も再発行されている。

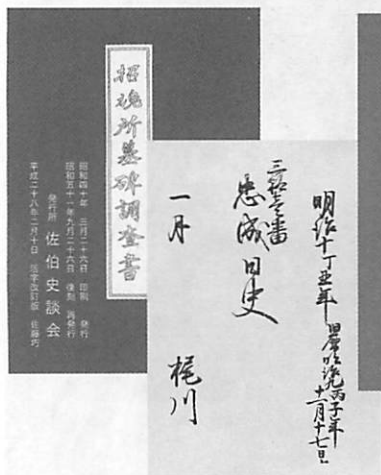
その後、佐伯史談会をはじめ各市民団体の手によって清掃ボランティアが継続されている。二〇年ほど前、市野瀬仁先生（故元副会長）は招魂所の荒廃を憂い、「敵愾の碑」や「東京警視萩原隊戦死の碑」を市の文化財に、また墓地境内を史跡や墓地公園として整備

【招魂所墓碑調査書】

昭和40年 佐伯史談会編

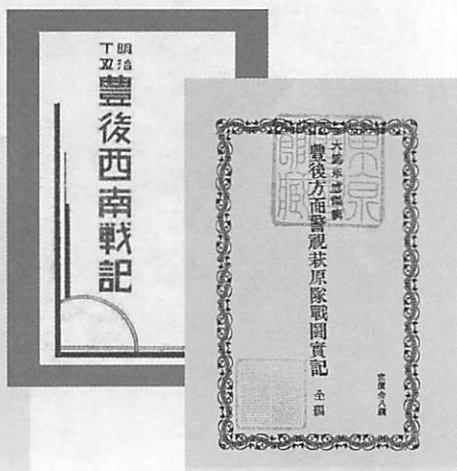
【豊後西南戦記】

昭和38年 南華柴田勝実編



【忠成日史】

明治10年 梶川成人



【豊後方面警視萩原隊戦闘実記】

明治11年10月 大庭永成編



佐伯招魂所 (臼坪岡の谷)

できないかと、市の担当課と折衝したことがある。しかし現地在国有地でもあり、いずれの担当課も難色を示して実現しなかった経緯がある。

九州管内の官軍墓地を検索してみると、熊本県の多くは県指定文化財（史跡）となっており、宮崎県では日向市・高千穂町の指定文化財、鹿児島県では曾於市の指定文化財等が確認された。いずれも行政によって整備され案内板が設置されている。大分県では護国神社に軍人墓地と警察官墓地が存在するが、大分県令や内務省の指定によるものである。

# 佐伯招魂所見取図

※『招魂所墓碑調査書』による

(所在地) 佐伯市臼坪岡ノ谷

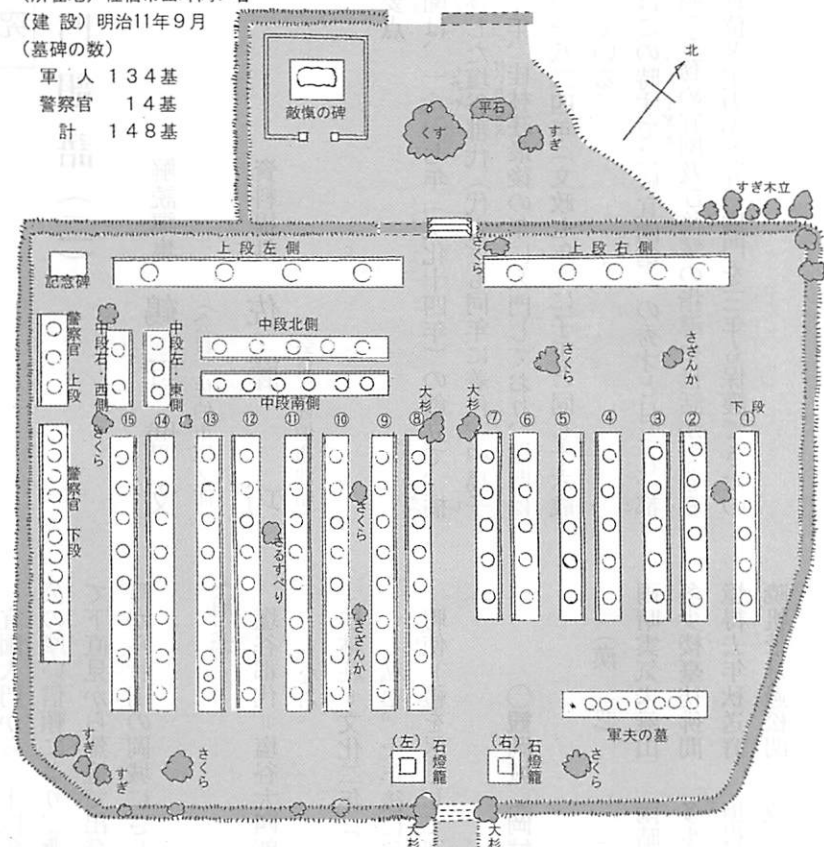
(建設) 明治11年9月

(墓碑の数)

軍人 134基

警察官 14基

計 148基



(注) 軍夫の墓1基は下段⑬列左より数えて8番目に移されている。(12ページ※印)

(付) 参道入口の2本の大杉は、その後の台風により倒壊、今はない。

